

# 令和5年度 学校だより3月最終号

令和6年3月25日

岸谷小学校ご関係のすべての皆様へ

校長 矢崎 真理

## 感謝の思いと 願いを伝えたくて

令和5年3月31日をもって、5年間勤めさせていただいた岸谷小学校を最後に、退職することになりました。岸谷小学校に着任したのは平成31年4月1日、5月には令和に年号が変わり、年が明けて令和2年3月からはコロナ感染症拡大防止のために、突然の臨時休校、分散登校になり、学校で今まで当たり前に行っていた教育活動、学校行事等すべてが制限された長い3年以上を過ごしました。手洗い、マスク着用、換気、消毒、出席停止など、コロナ対策に大変な日々ではありましたが、「制限される中でもできることは最大限がんばる！」という気持ちをもって一丸となって教育活動に取り組んだ教職員に支えられ、ご理解してくださったご家庭や地域の方々に励まされて、無事にこの5年間を過ごすことができたと思っております。学校説明会や学校だよりで発信し続けた校長としてのわたくしの思い・願いを汲み取って、ご理解、ご協力くださった保護者、地域の皆様方、教職員、そして岸谷小の子どもたちに感謝の思いを伝えたいと思います。5年間の長きにわたって支えてくださり、本当にありがとうございました。

子どもたちは一人ひとり、いろいろと不安などもあったことと思いますが、多くの子が「学校のよさ」を感じてくれて、物事をしなやかに受け止め、対応して、さまざまな学習活動に取り組んでくれました。

わたくしの学校経営方針は、「かけがえのない一人ひとりを大切に、居場所のある学校づくり」というわたくしが長年もっている教育ビジョンを掲げ、子どもたちの自己有用感を高め、地域・家庭と連携し、だれもが安心して学び、生活できる学校を目指しました。特別支援教育を充実させ、全児童それぞれに応じた指導・支援を的確に行うことを心がけ、誰もが全児童の担任という気持ちになって、求められれば、教職員誰もが対応する：「チーム岸谷」の対応を続けてきました。特に、他校にはあまり存在しない、校内通級教室「ひだまり」を立ち上げることができたのは、教職員が私の思いに添えてくれて実現できたことと思っております。校長として、教職員が経営方針を理解して全力で取り組んでくれることは、本当に幸せなことと思っております。子どもファーストであるのは当たり前のことですが、保護者・地域の皆さま、そして教職員も、すべての方々が「かけがえのない一人ひとり」と思って、日々務めてきました。

岸谷小学校は、基礎基本の定着を図り、学力の向上を目指すために、教員は授業力を高めるよう、研究研鑽に努めてきました。丁寧な授業を行って、子どもたちが「授業が楽しいイコール学校が楽しい」、となるようがんばっております。授業参観や、行事に取り組む姿で、見ていただけてきたことと思っております。

学校生活では、友達同士の交流、活動の中で、誤解があったり考えの違いがあったりすることがきっかけで、トラブルが起きますが、それぞれの思いを聞き取り、事実を明らかにし、主張することに違いがある場合も、それが実態であり、掴んでいる事実であることをご家庭にはお伝えしています。

子どもたちの記憶や思いはそれぞれに異なることがありますが、周りで見たり感じたりしている子どもたちの事実も受け止めながら、理解を深めて、認め合ったり、謝ったりすることができるように支援

しています。人と触れ合う中で起こる摩擦体験も、コミュニケーション力を高めていく手立てにしています。子どもたちへの豊かで優しい心の教育をめざして、道徳教育、人権教育を大切にしてきました。

いじめのない（しない、させない、ゆるさない）学校・学年・学級づくりを、常に、誰もが目指しています。「自分がされたら、その立場になったら」という想像力を働かせられる子どもになって、相手意識をもつことができ、相手のこともおもんぱかることができるように、働きかけ続けていきました。

岸谷小学校の学校教育目標は、とても分かりやすく、覚えて言える素敵な学校目標だと思います。

き：きぼう（希望） 社会に視野を広げ、たくましく未来を拓く意欲をはぐくみます。

し：しあわせ（幸福） 生命や健康を大切に、主体的に課題を解決する力を高めます。

や：やさしさ（優愛） 互いを認め合い、まちを愛しまちのために役立とうとする心を育てます。

※今年度から、やさしさ（他愛）だったのを、（優愛）に変更しました。

子どもたちも、運営委員会の呼びかけを始めとして、「きぼう、しあわせ、やさしさ」を覚えて繰り返し、学校生活の中に生かそうとしています。とても素敵なことだと思っています。

わたくしが、教育ビジョンとともにもち続け、校長職にあった年月に、ずっと子どもたちに言い続けた言葉は、「優しくね、優しくね、優しいことは強いだよ。」です。

人は誰でも、自分が幸せで満ち足りているときは他の人にも優しくなれます。でも自分の体調や気分に関係なく常に相手の気持ちになって優しくできるためには、それに左右されない強い心が必要です。自分がつらいときでも人に優しくできる人は本当に強い人です。「優しい」と「強い」ことは、言葉の意味からは正反対に思えます。しかし「優しい」と「強いこと」がイコールになるのです。人に優しくするのもされるのも、どちらもとてもあたたかい気持ちになります。そういった経験をたくさん積み重ねて、いじめなどのない「優しい学校」になると考えていました。

岸谷小学校の子どもたちには、今後も豊かな優しい心を育てて、充実した小学校生活を過ごしてほしいです。ねむの木学園の宮城まり子園長先生の著書にある「やさしくね、やさしくね、やさしいことはつよいだよ。」という言葉も、常になんか自身にも語りかけ続けたいと思っています。

岸谷小学校の子どもたち、そして教職員一人ひとりが、「優しくして強くなる」ことができるよう、地域の皆様方、保護者の皆様方とともに力を合わせ、より充実した教育活動の実践に向けて取り組んでいくことを願っています。

どうぞ令和6年度からも、今までのように岸谷小学校の子どもたち、教職員に向けてかけてくださったあたたかい思いを、これからももっていただけますよう、引き続きよろしくお願いいたします。

岸谷小学校の教育活動に対して、ご理解、ご協力をお願いいたします。

わたくしは、今後は側方からの支援の形で教職員にかかわり、子どもたちへと還元されるよう、教育関係機関に身を置いて、努めてまいりたいと思います。

本当にお世話になりました。感謝の思いは言い尽くせません。

ありがとうございました。お元気で！

矢崎真理